ワンポイント 稲作

水管理の徹底と病害虫・雑草防除は適期に実施しましょう

秋田地区営農センター 主任 中川 喜樹

今年度は田植始期以降も天候のよい日が続き、苗の活着もよく順調に生育しています。5月下旬も気温が上がり、終期に田植えを行った圃場では高温による生育不良が心配されます。また、カナの発生により一発除草剤の散布効果が遅れるなどして雑草が残ってしまうことが考えられます。雑草が繁茂すると稲の生育不良や斑点米カメムシ類のすみかとなってしまうため、残草してしまった圃場では中・後期剤を使用して徹底除草をしてください。

●茎数確保の水管理

分げつは、昼夜の温度較差の大きい場合に促進されます。このため、日中は地温・水温を高めるため浅水管理（2～3cm程度）とし、かん水は水温が低い早朝に、できるだけ短時間で行うようにします。また、低温、強風時は昼間の止め水、夜間の深水とし、高温時にはかけ流しをしましょう。きめ細やかな水管理が安定収量に繋がります。

●中干し

6月下旬までに、あきたこまちで21本/株（70株植え）、24本/株（60株植え）程度を確保したら中干しを行います。中干しは7～10日、圃場に軽く亀裂が1～2cm入り、足跡がつく程度とします（過度の中干しは、根を傷め稲体の衰弱に繋がります）。幼穂形成期（7月15日頃）前には終了するようにしましょう。中干し終了後、すぐに湛水に戻さず、間断かん水に努めてください。

●病害虫防除

いもち病

箱処理剤や移植時に側条施用しなかった場合は、「オリゼメート粒剤」（2kg/10a）を6月12～18日の間に散布し、病斑が確認された場合は「ブラシン剤」や「ビーム剤」を散布しましょう。

残草対策（斑点米カメムシ）

斑点米被害の原因となるアカスジカスミカメは、ノビエやホタルイ等の穂に産卵するため、これら雑草の防除が斑点米の被害防止に繋がります。ノビエ・ホタルイ等のとりこぼしが多いほ場では、中・後期除草剤の散布を検討してください。残草の状況をよく観察し、除草剤の散布適期を見逃さないようにします。

●主な中・後期除草剤

初期・一発剤で対応しきれなかった雑草については以下の薬剤を散布しましょう。

薬剤名		使用量	対応雑草	使用時期	使用方法
レブラス	粒 剤	1kg/10a	ノビエ、ホタルイ、オモダカ他	移植後14日～ノビエ4葉期（収穫60日前まで）	湛水散布（水深3～5cm）
クリンチャー	粒 剤	1kg/10a	ノビエ	移植後7日～ノビエ4葉期（収穫30日前まで）	湛水散布（水深3～5cm）
	ＥＷ	100ml/10a	ノビエ	移植後20日～ノビエ6葉期（収穫30日前まで）	湛水散布（水深3～5cm）又は落水散布
バサグラン	粒 剤	3～4kg/10a	ホタルイ、オモダカ、シズイ、クログワイ他	移植後15～55日（収穫60日前まで）	落水散布又はごく浅く湛水して散布
	液 剤	500～700ml/10a	ホタルイ、オモダカ、シズイ、クログワイ他	移植後15～55日（収穫50日前まで）	落水散布又はごく浅く湛水して散布
クリンチャーバス	ＭＥ	1000ml/10a	ノビエ、ホタルイ、オモダカ他	移植後15日～ノビエ5葉期（収穫50日前まで）	落水散布又はごく浅く湛水して散布

★今月のあなたの運勢 2019年6月★ 獅子座（7.23～8.22） 人間関係が広がりを見せる予感。習い事や地域の集まりなどには気軽に顔を出して。グループレジャーも幸運